夢 通信

平成29年 5月号
夢をつなぐ　心をつなぐ　世界をむすぶ
きぬがわ せいさ こうぎょう
衣川製鎖工業株式会社

『播磨国風土記』２　不思議な劔

播磨国風土記、讃容郡（さよのこおり）の条に不思議な話が出てきます。それは以下です。

昔、近江の天皇（天智天皇）の御世（668～672年）、丸部（わにべ）の具（そなう）というものありき。是は仲川の里人なり。此の人、河内の國兎寸（とのき）の村の人のもたる劔を買ひ取りき。劔を得てより以後、家こぞりて減び亡せき。
しかして後、苫編部（とまみべ）の犬猪（いぬい）、彼の地の墟を圃（はたつくり）するに、土の中に此の劔を得たり。土と相去ること、廻り一尺ばかりなり。其の柄は朽ち失せけれど、其の刃は渋（さ）びず、光、明らけき鏡の如し。
ここに、犬猪、すなわち鍛人（かぬち）をよびて、其の刃を焼かしめき。その時、この劔、のびかがみして、蛇のごとし。鍛人大きに驚き、つくらずして止みぬ。
ここに、犬猪、あやしき劔とおもいて、朝廷にたてまつりき。
後、浄御原の朝廷（天武天皇）の甲申の年、天武12年（684年）の七月、曾禰連麿をやりて、本つ処に返し送らしめき。今に此の里の御宅に安置けり。

佐用都比賣神社

伊和神社

◎　**丸部**（わにべ）**の具**（そなう）

播磨国風土記には大勢の渡来人の名が出てきます。この丸部（わにべ）の具（そなう）もそのうちの一人です。和珥（わに）氏は５世紀から６世紀にかけて奈良盆地北部に勢力を持った古代日本の中央豪族で、和珥は和邇・丸邇・丸とも書かれました。２世紀頃、日本海側から畿内に進出した太陽信仰を持つ鍛冶集団とする説があります。又、朱を生産する部族で、資源の枯渇により各地へ移住した、風土記の丸部の具は近江や奈良から移住した鍛冶の技術者だったのでしょうか？

◎　**河内の國兎寸**（とのき）**の村**

兎寸は高石市富木（とのき）が遺称地で、式内社、等乃伎（とのき）神社もあります。（和泉国大鳥郡）

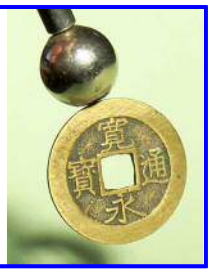
☆　播磨の古代寺院と造寺・知識集団４０　寺岡　洋　による

作用町から高石市まで150 km 余り、高速道路では 2.5 時間ほどですが、姫路経由だと200 km 3.0 時間。
山間地の作用から、風土記の時代は徒歩で10日位はかかったのでしょうが広域の交流があったのです。

『渡来人いずこより』のテーマで特別展が大阪歴史博物館で開催されます。ぜひ、見に行きたいと思っています。いにしえの日本にさまざまな文化をもたらした「渡来人」は朝鮮半島の「いずこより」来たのでしょうか？
古墳時代の出土資料をもとに、大阪を中心とした畿内やその周辺地域と、百済（くだら）・新羅（しらぎ）・加耶（かや）など朝鮮半島諸国との多様な交流を明らかにします。
会期:4月26日（水）～6月12日（月）火曜休館。
銀錯貼金環頭大刀（重要文化財）宮山古墳出土（姫路市）

銀錯貼金環頭大刀
ぎん さく てんきん かんとう たち

来て！見て！ふれて！
ふしぎ体感
『鉄のふしぎ博物館』



参考図書
播磨国風土記　上田政昭　監修　播磨学研究所編　神戸新聞総合出版ｾﾝﾀｰ1996
大阪歴史博物館　特別展資料